

給食だより



令和5年度
1月号

(毎月19日は食育の日)

●家族一緒に読みましょう

氷見市立灘浦小学校

あけましておめでとうございます。冬休み中は、日本の伝統文化に触れる機会も多かったのではないのでしょうか。正月料理には、豊作や無病息災等の願いが込められていますが、昔も今も、その願いは変わらないことを実感します。

さて、学校の始まりとともに、学校給食も始まります。給食時間を気持ちよく過ごせるように、今年の干支である「たつ(辰)」にちなみ、一人一人が給食の「たつ(達)」人を目指してみませんか？

給食の「たつ人」を目指そう

手洗い達人

お皿ピカピカ達人

盛り付け達人

よい姿勢達人

はし使い達人

後片付け達人

新年の無病息災を願う 正月行事

七草がゆ

春の七草「せり、なすな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろ」を入れたおかゆ。

1月7日の早朝(または前日夜)に、まな板の上に七草を並べて包丁で叩きながら、「七草なすな 唐土の鳥が ほんの土地に 渡らぬうちに はし叩け はし叩け」という七草ばやしや七草なすなを歌う風習があります。
※歌詞は地域や家庭によって異なります。

小豆がゆ

赤い色が邪気(病き)や災難等を払うとされる小豆を入れたおかゆ。

無病息災を願い、小正月の朝に家族全員でいただきます。小正月には、やぐらを組んで正月飾りや書き初めを燃やす「どんど焼き」や「左義長」等と呼ばれる伝統行事もあります。

1/24~1/30 「全国学校給食週間」 学校給食の昔と今

日本の学校給食の始まりは、明治22年までさかのぼります。山形県鶴岡町(現在の鶴岡市)にある大督寺というお寺に開校された私立忠愛小学校で、貧しくてお弁当を持ってこれない子供たちのために、食事を提供したのが始まりとされています。その後、全国各地へと学校給食が広がっていきましが、戦争の影響で中断されてしまいました。

戦争が終わり、子供たちの栄養状態を改善するために、アメリカのLARA(アジア救援公認団体)からの援助物資で学校給食が再開されることになりました。そして、昭和21年12月24日に給食用物資の贈呈式が行われ、この日を「学校給食感謝の日」とすることが定められました。昭和25年度からは冬休みと重ならない1月24日~30日の1週間を「全国学校給食週間」とし、学校給食の意義や役割について理解や関心を高めることを目的に、毎年、全国各地で様々な行事が行われています。

昔の給食を見てみよう!

昭和22年ごろ



トマトシチュー・ミルク



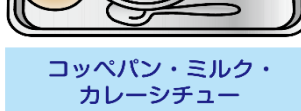
昭和25年ごろ

LARA 物資の脱脂粉乳や缶詰を使って、給食が作られました。ミルクは、牛乳から脂肪分を取り除いて乾燥させた「脱脂粉乳」をお湯で溶いたもので、独特な風味で苦手な子供が多かったようです。

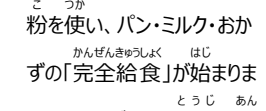
昭和40年ごろ



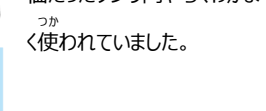
ソフトめん五目あんかけ・牛乳・甘酢あえ・みかん



昭和51年ごろ

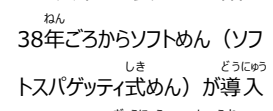


カレーライス・牛乳・サラダ・バナナ

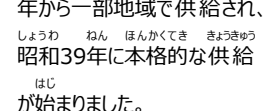


昭和22年ごろ

パン以外の主食として、昭和38年ごろからソフトめん(ソフトパグッテイ式めん)が導入されました。牛乳は、昭和33年から一部地域で供給され、昭和39年に本格的な供給が始まりました。



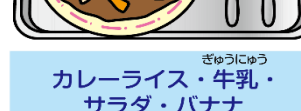
ソフトめん五目あんかけ・牛乳・甘酢あえ・みかん



昭和25年ごろ



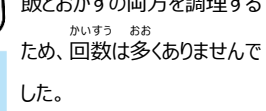
カレーライス・牛乳・サラダ・バナナ



昭和40年ごろ

アメリカから寄贈された小麦粉を使い、パン・ミルク・おかずの「完全給食」が始まりました。おかずには、当時は安かったクジラ肉やちくわがよく使われていました。

ソフトめん五目あんかけ・牛乳・甘酢あえ・みかん



今年度の給食週間のテーマは、「Youはどこから来たの? ~ ALTの出身地について知ろう~」です。

氷見市には、6人のALTの先生方がいらっしゃいます。出身地のいろいろな料理を食べ、インタビューを聞いて、ALTのことをもっと知りましょう。

